

② 野菜・花き

プロジェクト 「ながいも」で儲かる産地づくり

目標

- ・優良種苗の使用割合 過去5か年平均(H30～R4)：30% → R10：50%
- ・ながいも収量 過去5か年平均(H30～R4)：2.4t/10a → R10：3.2t/10a

挑戦する内容

- ・優良種苗供給体制の強化
- ・「夢雪」の高品質多収栽培技術の確立
- ・気候変動に対応した栽培技術の確立
- ・地域の担い手の確保・育成
- ・機能性に着目した高付加価値化

関係者の声
＝対話

- ・切いも方式の導入に当たり、供給可能な数量を知りたい。不足する場合は、供給体制が整うまでむかごの供給も続けてほしい（全農あおもり）
- ・新品種「夢雪」の特性に応じた施肥管理を検討する必要がある（ながいもの達人）
- ・機能性表示食品の届出に向けて、取組を進めてもらいたい（全農あおもり）

役割分担

- ・全農あおもり、JA：優良種苗増殖、研修会開催協力、販売PR、実証ほ等設置運営、現地指導
- ・生産者：現地実証への協力、検討会での提言
- ・産技センター：優良種苗供給、新品種の高品質多収栽培技術や気候変動に対応した栽培技術の確立、機能性成分の調査
- ・県立保健大学：機能性成分に関する効果検証及びシステムティックレビューの作成
- ・県：優良種苗供給体制整備、研修会・会議開催、実証ほ設置・調査、現地指導

変革後の姿

- ・優良種苗の使用割合が増加し、単収が向上
- ・コンパクトで品質の良い新品種「夢雪」の普及により、収穫労力の軽減や販売単収が向上
- ・機能性成分を表示した販売PRの実施

令和8年度計画

挑戦する内容

- 1 優良種苗供給体制の強化
 - ・催芽切いも、小切片による種苗増殖方法改善実践ほ設置（4か所）
 - ・原原種切いも供給体制の実証（野菜研）
 - ・輪作の導入や種苗冷蔵施設の整備による原原種の安定供給体制の強化（野菜研）【重点エリア（農林水産事務所別ミッション）】上北地域
- 2 「夢雪」の高品質多収栽培技術の確立
 - ・栽培技術確立試験（野菜研）
 - ・新品種試作展示ほ設置（9か所）
 - ・新品種の普及に向けた種苗供給及び栽培マニュアルの検討
- 3 気候変動に対応した栽培技術の確立
 - ・大雨による生育障害抑制技術の確立（野菜研）
- 4 地域の担い手の確保・育成
 - ・ながいもプロフェッショナル養成所研修の開催（3回）
- 5 機能性に着目した高付加価値化
 - ・機能性成分の探索（データ蓄積）及びGABA増強加工技術の開発（農加研）
 - ・レジスタントスターチに関する効果検証及び機能性表示食品の届け出（令和9年度）に向けたシステムティックレビューの作成（保健大）
 - ・機能性成分を活用したPR方法の検討（1回）



原種ほどのウイルス検査（全農）



ながいもプロフェッショナル養成所研修

対話

- ・部会やながいも戦略推進協議会、研修会等の場で意見を聞き取り、事業構築に反映（7月、9月、1月）